



平成20年以來2度目となる「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(以下、DC)」が、4月から6月までの3カ月間開催されます。

今回の仙台・宮城DCは、観光の持つ力で東日本大震災からの復興を促進するため、地域一丸となって、仙台・宮城のファンづくりに取り組みます。

キャッチフレーズは「笑顔咲くたび伊達な旅」。今号では、DC期間中に仙台・宮城を訪れる観光客の皆さんに笑顔の花を咲かせようと進められているおもてなし策をご紹介します。

## 震災復興、そしてさらなる飛躍の好機に



仙台商工会議所会頭  
鎌田 宏

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2年。県内各地では観光需要の回復に向けた取り組みが推進されているものの、宿泊旅行者数や観光消費額は、震災前の水準までには回復しておりません。そのような中で開催される今回の「仙台・宮城DC」は、仙台・宮城、ひいては東北が、震災復興にとどまらないさらなる飛躍を遂げていくための、大きな契機にしていかなければなりません。

前回の仙台・宮城DCでは、JRや自治体はもちろん、観光事業という垣根を越えた地元商工業者、さらには県民・地域全体を巻き込んださまざまな取り組みが進められ、「おもてなしの心の浸透」という素晴らしい財産を残し、全国にたくさんの方々の仙台・宮城ファンを生み出しました。

今回のDCに向けては、宮城県で「10万人のおもてなし大作戦」が展開されていますが、当所としても地元経済界からDCを盛り上げるため、商店街や企業の女性等を中心とした「仙台・街でもてなし隊」を結成し、おもてなし缶バッジやステッカーを活用したおもてなし意識の醸成に努めています。また、DCのPRや誘客支援を行う企業・団体による「仙台・宮城DC応援団」を設置したり、2月22日には当所会員事業所の皆さまによる「総決起大会」を開催するなど、DC本番に向けた機運の盛り上げを図っています。DC期間中には、仙台・青葉まつりとコラボレートして、青葉まつりの山鉾と仙台七夕の笹飾りを一度に楽しんでもいただくDC七夕も実施します。こうした取り組みは、8月の仙台七夕まつり、9月の全国商

## 県民一丸となって、笑顔の花咲く心づくしのおもてなしを



宮城県知事  
村井 嘉浩

仙台商工会議所会員の皆様におかれましては、日頃から本県観光復興に多大なる御協力・御尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。

いよいよ来月から「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」がスタートします。

本県には、風光明媚な景観や、多様な泉質が楽しめる温泉、「食材王国みやぎ」が誇る食など、たくさんの方々の魅力があります。また、津波の被害の大きかった沿岸部での、震災の様子を伝える「語り部」と、内陸部での宿泊や観光が楽しめる新しい仕組み作りなど、各地域が連携した取り組みも進んでおります。さらに、県内各地域では、DCに向けて、あらたな観光素材の発掘や磨き上げ、おもてなしの向上に取り組んでいただいております。

今回のDCを契機として、観光の力で、仙台・宮城の復興へつながる大きな追い風とするため、復興に取り組む姿勢と、全国・全世界からいただいた御支援への感謝の気持ちをお伝えし、「仙台・宮城に来て良かった」「仙台・宮城を応援したい」「また仙台・宮城に来てみたい」と思っていたら、笑顔の花咲く心づくしのおもてなしでお客様をお迎えしましょう。

そして、皆様自身も仙台・宮城の春の魅力を存分に楽しんでいただき、復興への活力となるよう、県民一丸となって盛り上げて参りましょう。

特集

# いよいよ開幕！ 仙台・宮城デスティネーション キャンペーン

工会議所女性会全国大会などに向けて、DC終了後も継続的に推進していき、仙台の街全体としてのホスピタリティー向上を図ってまいります。

「心のこもった笑顔のおもてなし」は、仙台・宮城の強力なサポーターづくりには不可欠です。今回のDCでも、仙台・宮城を訪れる皆さんに、ひとつでも多く心に残る思い出を持ち帰っていただくため、地域一丸となって街中に笑顔の花を咲かせましょう。

前回の仙台・宮城DCでは、仙台・青葉まつりの山鉦と七夕飾りが共演し、多くの来仙客を楽しませた。(一番町一番街商店街)

笑顔を満開にして  
お客様をお迎えいたしましょう



仙台市長

奥山 恵美子

いよいよこの4月より「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」が開催されます。このデスティネーションキャンペーン、仙台・宮城では平成20年秋に続き2回目の取り組みとなります。

前は初めての取り組みであったにもかかわらず、本当に多くの方々のご参加、ご努力により大きな成功を収めたDCとして、全国的にも評価されているところです。今回のDCは震災後の取り組みということもあり、多くの意義を有しております。震災により落ち込んだ観光客数の回復、それによる地域経済の活性化はもちろんですが、震災後、国内外からいただいた多くのご支援に、私たちの心からの感謝を伝えるとともに、復興に向けて力強く、凛として歩む仙台の姿をお伝えする貴重な機会ではないかと考えております。

仙台商工会議所様におきましては、商店街の女性を中心とした「仙台・街でもてなし隊」を結成いただき、まさにおもてなしの先導隊として、市民全体のおもてなしの機運を高め盛り上がり多に寄与していただいております。

今回は春のDCです。東北の長い冬が終わり、桜が咲く時期に始まるDC。まさに「笑顔咲く旅」になるよう、私たちの笑顔も満開にして、全国からいらっしゃるお客様をお迎えいたしましょう。

前回DCの振り返りと今回の開催意義を、まちづくりの専門家である志賀さんに伺いました。

## 前回の経験を糧に地域一体となった取り組みを



仙台商工会議所  
仙台宮城観光復興推進研究会 座長

(林東北地域環境研究室 代表)

### 志賀 秀一 さん

仙台・宮城DCが目前に迫りました。関係者の皆さんの取り組み、そして地域全体での総力により改めて「仙台・宮城」の観光の底力を示したいものです。

DCは、もともとJ・R、行政、観光関係者が中心となって行われていました。平成20年10～12月開催の初めての仙台・宮城DCに取り組みに当たって、仙台商工会議所がいち早く動き出し、地元商工業者、そして市民が積極的に参加する新しいスタイルを作り上げました。こうしたことで活動に広がり生まれ、深みが増し、大きな成果につながって各方面から高い評価を受けました。

それだけに、2回目挑戦となる今回は、前回からの継承、そして発展へと歩みを進めたいものです。

特に、東日本大震災により未だ多くの地域では厳しい状況が続いている

だけに、今回のテーマのひとつとして「被災地振興・支援」が盛り込まれています。こうした機会を地域の復興・再生へと弾みをつける好機ととらえ、仙台・宮城が総力をあげて「人が訪れなくなる震災前以上のまちをつくる」を合言葉に、しっかり対応することが大切です。

「人が動く」ことで地域に刺激が生まれ、需要が発生し、活性化が図られます。DCの開催はこうした動きを加速させる上で大きな影響を及ぼします。それだけに、私たちはDC後の先を見据え、常に新しい発見・発信を心掛け、多くの方に「仙台・宮城に行くことの必然性」を感じていただき、訪れた方をどうつないでいくかが大切です。

今回のDC開催は、東北観光の拠点・基点としての位置づけを確固たるものにするきっかけとしたものです。



## DC開催に向けて、着々と準備中

今回のDCを盛り上げようと、当所はもちろん、たくさんの方の企業がさまざまな取り組みを行っています。DCにかける意気込みとともにその内容を伺いました。

### 街全体がおもてなしの舞台

#### 市民全員参加で、笑顔のおもてなしを！



「仙台街でもてなし隊」隊長  
仙台商工会議所女性会会長  
(有)ひらが代表取締役

### 平賀 ノブ さん

「仙台的の今、そして将来を考える時、何をするにしても市民を忘れてはいけないという思いが私にはあります。DCも同じで、商店街だけが頑張ってもだめなんです。みんなで実践するから大きな一歩が踏み出せるのではないのでしょうか。ですから「仙台・街でもてなし隊」は、とてもいい取り組みだと自負しています」と平賀さん。

す。また、もてなし隊は、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会が展開する「10万人のおもてなし大作戦」の取り組みの一つ、「笑顔でおもてなし隊」にも参加しており、この「10万人の…」に参加する人たちに、無料で配布される缶バッジを身につけることになっています。

「仙台・街でもてなし隊」(以下、もてなし隊)とは、当所が中心となり、商店街や企業の女性を核に、仙台を訪れた方々に対して心のこもったおもてなしを実践しようという目的で組織されたもの。その取り組み内容は、例えば、おもてなしステッカーの掲示をはじめ、笑顔あふれるあいさつ、店舗前の清掃活動、店内への観光パンフレットの設置、お茶のサービスなどがあげられま

「この缶バッジを胸につけて、みんなで市内の観光地を循環する『るーぶる仙台』に手を振ってみませんか。大型観光バスに振るのもいいですね。手を振る笑顔が、次々と繋がっていくのは素敵な光景だと思います。乗っている観光客やビジネスで来られた方々も、きつと仙台の人たちの温かさに触れて、『仙台はいい街だね、また来たいね』と思っていただけるのではないのでしょうか。相手に歓迎の気持ち伝われ

## 地元百貨店として地域の魅力発信に貢献したい

ば、私たちも嬉しいですよね。仙台に来てくれてありがとう。震災の時、助けてくれてありがとう。そんな気持ちを込めて手を振りましょう。もちろん言葉で伝えることも忘れたくないですね」と平賀さんは熱く語ります。

去る2月5日にはもてなし隊の結成式が開催され、機運はますます盛り上がっています。

「9月には、全国から3,000人を超える女性経営者が集う全国商工会議所女性会全国大会も開催されます。DCが終わっても、おもてなしの気持ちを表す行動を取ることでできた幸福感を忘れず、継続して取り組みを進めていきたいですね」。

もてなし隊への参加は、会社単位でも、個人のグループでも可能です。みんなで一緒に、心を込めたおもてなしを実践しましょう！

### ■「仙台・街でもてなし隊」に関するお問い合わせ・参加申し込み先

仙台商工会議所 地域づくり推進チーム  
電話 022-26518184



缶バッジとステッカーが「仙台・街でもてなし隊」隊員の証



「むすび丸ネクタイ」が、  
会話と人を結びます。

(株)藤崎 紳士服部 主任

太田 伸輝 さん

東北に店舗を展開する百貨店、藤崎の紳士服フロアで、ひととき存在感を放っているネクタイ。それが「むすび丸ネクタイ」です。この宮城県の観光をPRするマスコットキャラクター「むすび丸」があしらわれたネクタイを企画・製作したのが太田さんです。

「ネクタイ売り場では、これまでも七夕や伊達政宗公といった当地にゆかりのあるモチーフを取り入れた柄のネクタイを取り扱っていたのですが、私自身はこれまでの柄を刷新したネクタイをつくりたいと思っていました。そこで注目したのが『むすび丸』だったわけです」。

実は「むすび丸」にたどり着く前に、「笹かま」をモチーフにしたエレガンス風な柄のネクタイを考えていた太田さん。今回のDCをきっかけに「むすび丸」のみの柄だけでなく、「むすび丸」に笹かまをあしらったものの2パターンの柄を製作。昨年12月から販売を開始しています。

「藤崎の経営理念の一つが『地域発展主

義』に合致し、仙台・宮城の観光に寄与できればという思いでつくりました。これまではゆるキャラのファンの方が遠方からお越しくださったり、首都圏からも『東京で販売しないのですか』といった問い合わせをいただきました。でも、宮城県に来ていただくことがDCの一番の目的ですから、『ここでしか買えない』という付加価値を守るためにも、藤崎の店舗以外で販売する予定はありません」と太田さん。

当初、社内ではなぜ、むすび丸の柄なのか、牛たんはないのかといった質問が飛び交ったと太田さんは話します。

「これは、会話のきっかけをつくるネクタイでもあるのかなと思いました。観光で来られたお客様との会話を盛り上げてくれるでしょうし、4月は異動の時期でもありますので、仙台に来られた方には話題づくりの一助に、転勤で当地を離れる方には仙台・宮城の思い出としてお買い求めいただけるのではないかと期待しています」。

藤崎クオリティーのシルク製「むすび



丸」ネクタイには、宮城出身の太田さんの郷土愛も、織り込まれています。

「むすび丸」のみがあしらわれたピンクの他、「笹かま」がプラスされた4色が揃う。税込価格 各6,195円



Sendai & Miyagi, where smiles blossom



## DC開催に向けて、着々と準備中

お客さまとともにおもてなしの心を表現したい



仙台とともに歩む企業として、  
市民の目線で取り組みます。

（株）鐘崎 取締役営業本部長

嘉藤 明美 さん

前回のDCでは、プレキャンペーン期間から観光客に対する「おもてなし強化」に取り組んだ実績をもつ鐘崎。当時は、自社製品から仙台の歴史や文化に至るまでの知識と情報を身に着けた「コンシェルジュ」を社内でも育成して対応しました。

「今回は特に『コンシェルジュ』という肩書をつけておりません。前回のDCをきっかけに、スタッフ全員に『自分はコンシェルジュである』という意識が根付いたため、必要なくなったのです」と嘉藤さん。同社のおもてなしの心を具現化したものの一つが、本社工場（若林区鶴代町）敷地内に建つ「七夕館」です。日本で初めて七夕飾りを常設展示した館内には、藩政期や明治・大正時代の七夕飾りを再現。今回はここに、仙台の七夕の歴史を解説する「語り部」を常駐させる予定があるそうです。

このように、今回のDCにも並々ならぬ

熱意を傾ける同社。その背景には、一昨年の大震災が大きく影響しているようです。「震災直後に営業を再開した際には、大勢の市民の皆さまに喜んでいただきました。何よりうれしかったのは、被災された皆さまが『ありがとう』『元気です』というメッセージを伝えるために、弊社の笹かまぼこを選んでくださったこと。この体験を通して、私たちは笹かまぼこが仙台市民のソウルフードであること、仙台に暮らす方々の想いを伝える役割を果たすものであることを再認識させていただきました。多くの

方々が弊社の商品に想いを託してくださったことに誇りを感じると同時に、鐘崎を育んでくださった地元・仙台のために何ができるのかを真剣に考えなければならぬと思います。私たちは仙台が大好きです。この街を愛する市民として街の魅力を発信したい。簡単なことではありません

が、今回のDCではその方法を考えて、市民の皆さまとともに、一歩前に踏み出したカタチでの『おもてなしの心』を表現させていただきたいと思っています」と嘉藤さん。

これを機会に、同社の「七夕館」に足を運んでみませんか。迎える私たちが「七夕」を知り、仙台をもっと好きになることで、より良いおもてなしを実現することができるかもしれません。



七夕飾りが常設展示されている「七夕館（入館料無料）」（若林区本社工場内）

## 街歩きとともに楽しむ エンターテインメント

『キャッツ』で関東圏からも集客



四季（株）仙台オフィス  
新都市公演本部長

検見崎 博之 さん

4月23日、劇団四季の代表的ミュージカルである『キャッツ』のロングラン公演が幕を開けます。

「仙台で初めて上演してから、9年が経過していますので、当時、お友だち同士で観た方も、今回はお子さん連れで楽しんでいただけるのではないのでしょうか。同じ作品でも、新鮮な感動を味わっていただければ幸いです」と、9年ぶりの再演となる『キャッツ』に、自信をのぞかせる検見崎さん。今回も、東京エレクトロンホール宮城で上演されます。

「これだけ都心部にある劇場は、仙台と同規模の他都市と比較してみても、あまり例がありません。東北の玄関口である仙

## 業種の垣根を越えたコラボレーション



「牛たん」と「寿司」で  
ジョイントプランを実施

仙台牛たん振興会事務局長  
榊喜助 営業本部長

小野 博康 さん

という内容にグレードアップしています。

「今回、仙台寿司業組合さんとの共同企画を行うことになったのですが、それを果たさせたのは、『お客さまの声』でした。クーポンを発売していただいたホテルや旅館の方々が『牛たんもいければ、仙台の新鮮でおいしいお寿司も食べたい』というお客さまの声を聞いたのだそうです。お客さまの立場に立つてみれば、ごもつともな意見ですし、一枚のクーポンが牛たんと寿司、両方に利用できる方が使いやすいとす

でもいい。このご提案を仙台観光コンベンション協会さんからいただいた時、私たちも仙台寿司業組合さんも、すぐに『やりましょう!』と意見が一致しました」。

震災から2年が経過した今回のDCには、たくさんの支援や励ましの声に応えたいという、両者の思いが込められていると小野さんは話します。

「おいしいものをご提供申し上げることが、仙台・宮城、そして東北の復興と発展の一助になれば、私たちもうれしいです。牛たんや寿司だけではなく、DCにかかわる全ての業種の皆さんと、そして市民の皆さんともジョイントする気持ちで、お客さまをお迎えしたいと思います」と、小野さんはDCにかける意気込みを語ります。



**ホテル・仙台名物 ジョイントプラン**

仙台・宮城DC期間中、仙台市内中心部3DC指定ホテル・旅館にご宿泊  
いただいたお客様、もちろん仙台名物「牛たん」や「ぎげ丼」の魅力を  
店舗で楽しめるお祭り企画が楽しめるプランです!

牛たん定食 ぎげ丼&寿司

**平成25年4月1日～6月30日**  
牛たん…牛たん定食が200円割引!  
ぎげ丼&寿司…ご注文に併せて一品サービス!  
(サービス品は各店舗により異なります)

問/公財)仙台観光コンベンション協会 観光事業部 TEL:022-268-9568

「ホテル・仙台名物ジョイントプラン」指定宿泊施設

「仙台を訪れた皆さまに、仙台の食文化である牛たんを堪能していただくという事で、牛たん定食が200円引きになるサービスを実施したのが最初です」と小野さん。

さらに今年は、仙台寿司業組合も参加。ぎげ丼を含む寿司もサービスの対象になる「ホテル・仙台名物ジョイントプラン」を実施することになりました。牛たん定食の200円引きは変えずに、寿司店では注文に合わせて一品料理のサービスが付く

台駅から徒歩で来られて、しかも公演の前後に飲食を楽しめる場所が隣接しているのも大きな特徴です。劇場の立地の面では、東京・有楽町の日生劇場や宝塚劇場と似たような環境にあると言っても過言ではないと思います」と話す検見崎さん。劇団四季のスタッフの皆さんは、『キャッツ』の象徴ともいえる「猫目」をあしらったフラッグやポスター、猫の足跡などを仙台のまちなかにちりばめることで、観劇気分を盛り上げる企画を現在、計画中とのことです。

「この時期、『キャッツ』が上演されているのは世界中で仙台だけです。東北のみならず、関東圏からも足を運んでくださるものと期待しています。『キャッツ』が開幕するころには、暖かさも増してきます。日中は観光を楽しんで、その後、ミュージカルを存分に楽しんでほしいと思います。そして観劇前後の食事場所を探す際は、仙台商工会議所さんが今回も発行する、会場周辺の飲食店情報を掲載した『プレミアムマガジン』を活用し、観劇とあわせて仙台の街なか観光もお楽しみいただければ、より充実した一日になるはずです」。

9年前とキャストが変わり、舞台装飾がどう変化したのか。確かめるのも面白いと思いますので、ぜひ劇場にお越しください。なお『プレミアムマガジン』は、来場されたすべての観客の皆さんに、会場で配布されます。